

内灘砂丘の砂で陶器

陶芸家・岩崎さん

内灘町室に工房を構える同所出身の陶芸家岩崎晴彦さん(48)は金沢市粟崎町6丁目IIが、内灘砂丘の砂を使った陶芸作品「恋砂」を考案し、制作に励んでいる。砂丘を思わせる独特の風合いで、小皿や花器など約15種類あり、町は内灘の土産品としての活用を検討している。岩崎さんは「恋砂」の新作開発に意欲を見せ、砂を使った多彩な陶器で「砂丘の町・内灘」の発信を目指す。

岩崎さんは金沢卯辰山工芸工房で1991年から4年間研修を受け、金沢市内の工房で働いた後、97年に実家の納屋を改装して工房「suetukuri(すえつくり)」を構え、独立した。内灘砂丘の砂を使った作品制作に初めて挑戦したのは2012年ごろで、作家井上靖さんの詩「日本海美し 内灘の砂丘美し 波の音聞きて 生きる人の心美し」に心を打たれ、波音や砂浜の情景が脳裏に浮かぶような陶器作りを決意し、試作を重ねた。



恋人の聖地ちなみ 「恋砂」土産品に

信楽の土で成形して乾燥させた後、きめ細かな白い粘土を周りにコーティングする「白化粧」の工程で、粘土に内灘砂丘の砂を加えて焼き上げる。表面には砂の粒が細かな黒い点となって浮き上がり、ざらっとした独特の肌触りが特徴で、内灘町が「恋人の聖地」であることから「恋砂」と名付けた。

内灘町は町独自の土産品が少ないことから、砂丘や海、恋人の聖地にちなんだ品として活用に期待を寄せており、道の駅「内灘サンセットパーク」などでの展示販売を検討している。

岩崎さんは「要望に応じた砂の配合の割合を変えたり、好みの形の陶器を作ったりすることもできる。家庭や飲食店で普段使いできる陶器として広まればうれしい」と話した。

内灘砂丘の砂を使った陶器「恋砂」を紹介する岩崎さん
II内灘町室の工房「suetukuri」